

# 要 望 書

平成 24 年 10 月 30 日

三原市長 五藤 康之 殿

三 原 商 工 会 議 所

## はじめに

平素より本所事業運営につきまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、国内経済は、歴史的な円高、欧州債務危機の表面化、中国など振興国の輸出が減少し、それに連動して国内企業の振興国への輸出不振、また、中国との関係悪化による国内経済への影響などにより先行きは不透明となっております。

県内の景気は、その影響の下でも全体としては横ばい圏内で推移しておりますが、長期にわたるデフレにより中小企業にとっては依然厳しい経営環境での企業活動が続いております。

地域経済社会の活性化は、中小企業の活力強化なくしてはありません。本所といたしましても「地域総合経済団体」として、市内中小企業の経営力向上に日々努めているところでございます。

本要望は、本所の「販売商業」「生産工業」「建設」「サービス」「運輸車輛」の5部会を通じて提起された問題・課題に協議・検討を重ねたものです。

三原市におかれましても厳しい財政状況とは存じますが、市内中小企業に活気が戻るよう対策が講じられることを期待し、以下の事項が平成25年度の事業ならびに今後の三原市の長期総合計画を通して具現化されますよう要望いたします。ご高配賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## **要望1 ペアシティ三原東館跡地への市庁舎移転推進の継続的な取り組みについて**

これまで三原商工会議所では当該跡地の活用策として、商業にとどまらず迎賓・コンベンション機能、文化、教育、公共機関、交通、住宅などを街の中心部に集積することで活性化の相乗効果を図るべきであるという見地から、一貫して市庁舎を核とした「にぎわい拠点整備」が最も有効であるとの要望をしてまいりました。

残念ながら、我々が提出した推進の請願も去る6月26日に市議会において不採択となり、調査特別委員会の委員長報告も否決となりました。

しかし、『市庁舎を核とした賑わい拠点整備』により持続可能な都市構造への転換を図り、中心市街地の活性化を図るべきであるという我々の考え方に変わりはありませんので、この問題の解決に向けて継続的な取り組みをしていただきますよう、強く要望いたします。

## **要望2 三原市内企業動向の情報共有による三原市と商工会議所の連携について**

少子高齢化による人口減少に伴う市場規模の縮小、長期化する円高、長引く景気低迷等により事業所の統廃合、三原市内の事業所の閉鎖、市外移転、海外移転などの現象が今後引き続いて発生することが懸念されます。

三原市内の事業所が減少することは、市民の雇用の場が消滅して更なる人口減少に拍車をかけるばかりではなく、経済活力の低下、市税収入の減少という結果をもたらします。

については、三原市内事業所の撤退、移転等の情報を察知した時、もしくは懸念のある場合には、事業所の組織決定・機関決定がなされた後での情報開示で後手に回ることのないよう、早期に三原市と商工会議所が情報を収集し共有することにより、対応策の協議を行い、予防措置である官民挙げての陳情活動を行うことが必要であると考えますので、迅速な対応をお願いいたします。

## **要望3 地元産業の育成・振興について**

### **■ 建設関係工事及び小売業の地元発注について**

三原市の発注する公共工事について、地元建設関連業者への優先発注については、現在も実施いただいておりますが、今後の公共工事につきましても、引き続き地元企業の育成という観点に立ち、ご対応いただきますようお願い申し上げます。

また、同様に市が調達する物品等の市内小売業者への優先発注につきましても、市内の活性化、業者の育成の観点により引き続きご対応いただきますようお願い申し上げます。

### **■ 物販・飲食業等の地元業者の育成・振興について**

物販・飲食業等につきまして、地元の業者をご利用いただき市内店舗の育成・振興、また市内の活性化に引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

はしご酒の際には、多くの職員の方々にもご参加いただいておりますが、次年度については、参加者の方にアンケート調査を実施し、その結果を活用して、例えば「はしご酒人気のお店」等の認定を行うようなことも検討しております。

また、来年度は「第 26 回全国菓子大博覧会・広島」が開催されます。三原市自慢のお菓子等を広く周知する絶好の機会と考えておりますので、道の駅の売れ筋商品等のデータを活用したブランド認定などについても検討いただきますようお願い申し上げます。

このような相互連携により、将来的に新たな商品開発に結び付けていきたいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

#### **要望4 交通インフラの整備について**

##### **■新幹線「ひかり号」増便と「のぞみ号」停車について**

「こだま号」の発着間隔を短く設定したダイヤ編成をJR西日本に行っていただくことで、広島、福山に着く「のぞみ号」からの接続利用客の増加を図り、将来的に「ひかり号」の増便、さらにはビジネス利用者をターゲットに、朝夕で利用できる「のぞみ号」や「みずほ号」「さくら号」の停車にむけて、長期的な視点からの要望活動をお願い申し上げます。

そのためには、引き続き行政と経済界・関係団体・地元企業が一体となって新幹線利用促進を図ることをお願い申し上げます。

##### **■木原道路の早期完成及び周辺道路の整備と三原バイパスの標識について**

「三原バイパス」と「尾道バイパス」の「木原道路」経由での直結は、市内の交通事情改善には不可欠であり、また、三原市流通の大動脈である「三原バイパス」に連結する主要道の「県道 尾道－三原線」の拡幅、「三原東城線恵下谷バイパス」の調査等につきましても、国や関係機関に対する要望活動など、引き続き整備促進を図っていただきますようお願い申し上げます。

なお、三原バイパス開通に伴い設置された標識看板について、一部わかりにくい箇所があるので、見直しが必要だと思われまます。

##### **■広島空港へのアクセス整備について**

空港利用促進を図るために、「県道東広島本郷忠海線」などの空港へのアクセス網の整備が行われるよう、引き続き関係団体と連携・要望いただきますようお願い申し上げます。

また、地方自治体としては、将来のあるべき姿として「広島空港への軌道系アクセス整備」の夢は、捨てるべきではないと考えます。国内主要空港では、軌道系アクセスが整備されております。地域の発展、空港の利用促進のために「広島空港」にも必要ではないでしょうか。第一段階として空港⇄三原、第二段階として空港⇄広島を要望していくべきと考えます。

## ■ 港湾施設の整備について

「重要港湾尾道糸崎港」の糸崎地区は、内外貿易貨物の流通拠点として重要な役割を果たしています。今後も、港湾や関連施設の整備を継続して行っていただくことで、流通拠点機能を一層充実させていただきますようお願い申し上げます。

また、三原内港地区の「みなとオアシス」に代表されるウォーターフロント空間の整備、プレジャーボートを収容する施設や「臨港道路古浜貝野線」等の建設計画実現に向けての要望活動にも取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

## ■ 道路の維持活動について

バリアフリー化については、「バリアフリー化計画」に基づき、中心市街地を重点的に整備され、市全域に順次改良を進められておりますが、「ペアシティ西館」の周辺部など、違法駐輪が歩行の妨げになっている箇所が目立ちます。対策として、違法駐輪防止のための啓発活動だけでは不十分で、駐輪場の設置など将来にわたる抜本的な対応計画が必要だと思われまます。

また、中心市街地では街灯が低いためにトラックのキャビンに接触する、沼田川河口付近の道路では街路樹の枝が道路に覆いかぶさり通行の妨げとなるなど、折角、整備・拡張された道路の安全性、利便性が損なわれている箇所が存在しています。

そこで、街灯については更新時に高さ制限の指導をしていただき、街路樹については早めの処置をしていただくなどの対応をお願い申し上げます。

また、定屋大橋など時間帯によって比較的規模の大きな渋滞が起きる場所については、信号の時間を調整していただくよう関係機関に要望いただきますようお願い申し上げます。

さらには、「三原西部工業団地」を通る「県道362号」のように見通しが悪いのにスピードが出しやすい場所へは信号の設置していただくよう、また、「本郷久井線」の「山陽自動車道」に併走する箇所は、見通しが良いためスピードを出しやすいので、スピードを落とすように注意喚起する看板の設置していただくよう、関係機関に要望いただくことで、市内交通事情の向上を図っていただきますようお願い申し上げます。

## 要望5 観光資源の整備について

### ■ 三原市文化財の常設展示について

三原市が計画されている「三原市文化財総合展（仮称）」につきましては、是非とも実現していただきたいと考えております。なお、これを機に、近い将来には常設展示場の新設をご検討いただきますようお願い申し上げます。

なお、展示場につきましては、「やはた川自然公園」の中にあり国・県の重要文化財を多数所有する御調八幡宮を活用する事を考慮に入れて、調査研究を開始していただきますようお願い申し上げます。

## ■「広島スカイアーチ」の観光資源としての活用について

平成 23 年 4 月 20 日に開通した「広島空港大橋（広島スカイアーチ）」は、長さ 800 m、高さ 190m、アーチ部分の幅は 380m と日本一の規模を誇ります。

このスカイアーチの景観を楽しめるようにと「棲真寺公園」の整備が行われ、上から眺める場所はできましたが、橋の眺望を下から楽しめる場所がありません。眺望場所を「県道 33 号線」沿いに設けることで、船木峡と一体となった観光スポットに充分なりえるものと考えます。広島スカイアーチが完成して早 1 年半、時機を逸することのないよう早急に検討いただきますようお願い申し上げます。

本所といたしましても、市外・県外に対して積極的に PR してまいります。

## ■「三原市ふるさと大使」川原正敏 氏の連載漫画を活用した観光 PR について

「三原市ふるさと大使」の漫画家 川原正敏 氏が、月刊少年マガジンに現在、隔月連載している「修羅の門異伝 ふでかげ」は、三原市が舞台となっており、「筆影山」、「広島空港」や、「県立広島大学」、「沼田川中土手」、「三菱和田沖グランド」など市内各所が登場いたします。

全国の川原氏のファンが、舞台となった三原市に訪問する契機となっており、連載中の今が、この漫画を通じて三原市を PR する絶好の機会といえます。

そこで、看板設置や紹介パンフレットなど、PR 方法についてご検討くださいますようお願い申し上げます。

## ■三原市内のグルメ（土産品）マップの多国語版制作について

三原商工会議所・三原臨空商工会・三原観光協会などの連携により、平成 24 年、三原市内のグルメ（土産品）マップの制作を進めております。

本年度、三原市及び関係団体で構成する「国際交流推進会議」が発足し、地域の素材を活かした観光と国際交流の活発化のため、海外都市との交流・インバウンド観光事業の調査研究に取り組まれるよう伺っております。

つきましては、前述のグルメマップの多国語版を協働により別途作成することで、さらに広く活用できることと存じますので、是非ご協力くださいますようお願い申し上げます。

## ■観光地のアクセス整備及び情報発信について

三原における観光名所である竜王山・筆影山・佛通寺・白滝山について、現在、「林道久和喜竜王線」、「本郷久井線」などの整備が進められておりますが、これらの観光名所へのアクセス網の整備を引き続き進めさせていただきますようお願い申し上げます。

また、三原市の観光対策事業が、残念ながら三原市民によく伝わっていない面があるように思われます。広く事業を市民に周知するとともに、また、市外に向けて、「佐木島」「小佐木島」など三原市の貴重な観光資源の魅力も併せ、情報発信を行っていただきますようお願い申し上げます。

## **要望6 情報発信のためのネットワーク形成と仕組みづくりについて**

インターネットを通じた情報発信は日々進化し、Web1.0のような一方的静的情報発信から、情報の受け手も自由にコンテンツを作り上げることが可能なWeb2.0へ、そして、TwitterやFacebook等のようなSNS（Social Networking Service）によるものが主流となり、人と人との繋がりをサポートするコミュニティー型ツールの利用が増えています。

現在、「三原市ふるさと情報発信事業推進協議会」ではFacebookページを利用し、各団体が連携した情報発信の方法について模索しておりますが、情報発信するためのネットワーク機能を強化し、幅広い情報発信ができるような人的ネットワークの構築が必要であると考えられます。こうした仕組みの形成についてご検討いただくとともに、三原市のホームページにも、情報を集約できるような仕組みを設けていただき、リアルタイムにきめ細かい発信ができるようなシステムを導入にすることにつきまして、ご検討いただきますようお願い申し上げます。

## **要望7 三原市職員との懇談会開催について**

三原商工会議所情報化委員会では、昨年度に続き三原市の若手職員の方との懇談会を11月に開催させていただきます。

平成24年度は、三原青年会議所の企画により開催し、昨年を引き続き行政と民間との相互連携を図り、将来、三原市のまちづくり活動を円滑にするためのものとなるよう継続して開催していきたいと考えております。

つきましては、若手職員の方との懇談につきまして、引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。

## **要望8 道の駅「みはら神明の里」の情報発信機能強化について**

平成24年3月に道の駅「みはら神明の里」がオープンしたことにより、三原の農水産物・土産品・観光などいろいろな面での情報発信機能が強化されてきています。

本年度においては三原市で、道の駅サイネージ用の三原のPR動画を作成されたり、観光情報発信機能強化のため「みはら版観光ガイドブック作成」等について取り組まれておりますが、次年度も引き続き情報発信機能強化につきまして取り組んでくださいますようお願い申し上げます。

また、商工会議所でも道の駅を利用した情報発信イベント等の開催を企画してまいりたいと考えておりますので、関係機関との連携なども含め、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 24 年 10 月 30 日

三 原 市 長  
五 藤 康 之 殿

三原商工会議所

会 頭 伏 見 暁